

<法律学科> (認定課程: 中学校1種(社会))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	<p>教職共通科目を履修し、一般教養として必要な日本国憲法、スポーツ、外国語コミュニケーション、情報機器の操作に関する基礎知識を修得する。</p> <p>学科の基礎科目(必修科目)でもある「法学の基礎」を履修し法律的素養の基盤づくりをしつつ、学士課程における専門教育の全体像を把握し、そこでの教科に関する科目(以下、教科科目)の位置づけを理解する。加えて、教科科目「人文地理学」「倫理学」「哲学」を学科の基礎科目と関連付けて履修することを通して、人間とその社会に関心をもつ。</p>
	2 Semester	<p>教職共通科目を履修し、一般教養として必要な健康科学、スポーツ、外国語コミュニケーションに関する基礎知識を修得する。</p> <p>学科の基礎科目(入門科目)でもある「政治学入門」を履修し政治的素養の基盤づくりをしつつ、学士課程の専門教育における教科科目の位置づけをより深く理解する。加えて、教科科目「地域らしさの探求」「自由と正義の倫理学」「科学と技術の哲学」を学科の基礎科目と関連付けて履修することを通して、人間とその社会に対する関心や理解を深める。</p>
2年次	3 Semester	<p>教職科目を履修し、教育の基本的概念・理念・歴史を踏まえつつ教職の意義・あり方を理解し、教員として必要な資質・能力の基礎を修得する。</p> <p>専門科目として、学科の展開科目・関連科目でもある「政治史」「経済学Ⅰ(ミクロ経済学)」に加え「地誌A」については、これらを基幹科目などと関連付けて履修することを通して、法律・政治・経済・地誌の視点から人間とその社会に対し多角的にアプローチしつつ理解を深める。</p>
	4 Semester	<p>教職科目を履修し、子どもの発達段階とこれに応じた指導・教育、カリキュラム・マネジメントの意義・方法、学校教育・学校経営の現状・課題などに関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>教科科目として、学科の展開科目・関連科目でもある「政治過程論」「経済学Ⅱ(マクロ経済学)」「国際関係論A」に加え「地誌B」については、これらを基幹科目などと関連付けて履修することを通して、法律・政治・経済・地誌とともに国際関係の視点から人間とその社会に対し多角的にアプローチしつつ理解を深める。</p>
	通年	<p>教科の指導法に関する科目である「社会科教育法」について、学士課程の専門教育および専門科目との連関を意識しつつ履修し、社会科の指導法を修得する。</p>
3年次	5 Semester	<p>教職科目を履修し、特別支援教育の指導法、教育実践における価値観・方法・技術、情報通信技術を活用した教育方法などを修得する。</p> <p>教科科目として、学科の展開科目でもある「政治思想史」「法史学A」「国際関係論B」「国際法A」「先端研究講義Ⅱ-1(国際経済法)」「法哲学A」「法哲学B」に加え「自然地理学A」については、他の展開科目などと関連付けて履修することを通して、人間とその社会に関し歴史・自然地理などの視点も踏まえて洞察する力を修得しつつ理解を深める。</p>
	6 Semester	<p>教職科目を履修し、学校におけるカウンセリングを含む教育相談の方法、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法などを修得する。</p> <p>教科科目として、学科の展開科目でもある「法史学B」「国際法B」「先端研究講義Ⅲ-2(国際経済法)」に加え「自然地理学B」については、他の展開科目などと関連付けて履修することを通して、人間とその社会に関しグローバルな広い視野をもち洞察する力を修得しつつ理解を深める。</p>
	通年	<p>教科の指導法に関する科目である「社会・公民科教育法」について、学士課程の専門教育および専門科目との連関を意識しつつ履修し、社会科の指導法を修得する。</p>
4年次	7 Semester	<p>教職科目を履修し、教職科目を履修し、生徒指導・進路指導の原理・指導方法などを修得する。</p>
	8 Semester	<p>教職科目を履修し、4年間の学士課程および教職課程における学びを総括したうえで、自身の教職適性も含めて真摯に省察を行い、教職実践および学校現場へと積極的に志向する姿勢を形成する。</p>
	通年	<p>「教育実習Ⅰ」を履修し、十分な事前指導のうえに学校現場における教育実践に臨むことを通して、授業実践のための教科力を修得するとともに、教師としての実務において求められる広範な資質・能力を体得する。また、生徒観を錬磨するとともに、教師の職業の本質を十分に理解することを通して、教職への意欲を確かなものにする。以上の目標の達成を確かなものにするために、事後指導を行う。この一連のプロセスを通して、4年間の学士課程および教職課程において修得した「理論」と、学校現場における「実践」との「往還」に留意しつつ、教師に必要な力量を修得する。</p>

<法律学科> (認定課程: 高等学校1種(公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1セメスター	<p>教職共通科目を履修し、一般教養として必要な日本国憲法、スポーツ、外国語コミュニケーション、情報機器の操作に関する基礎知識を修得する。</p> <p>学科の基礎科目(必修科目)でもある「法学の基礎」を履修し法律的素養の基盤づくりをしつつ、学士課程における専門教育の全体像を把握し、そこでの教科に関する科目(以下、教科科目)の位置づけを理解する。加えて、教科科目「倫理学」「心理学」「哲学」を学科の基礎科目と関連付けて履修することを通して、人間とその社会に関心をもつ。</p>
	2セメスター	<p>教職共通科目を履修し、一般教養として必要な健康科学、スポーツ、外国語コミュニケーションに関する基礎知識を修得する。</p> <p>学科の基礎科目(入門科目)でもある「政治学入門」を履修し政治的素養の基盤づくりをしつつ、学士課程の専門教育における教科科目の位置づけをより深く理解する。加えて、教科科目「自由と正義の倫理学」「科学と技術の哲学」を学科の基礎科目と関連付けて履修することを通して、人間とその社会に対する関心や理解を深める。</p>
2年次	3セメスター	<p>教職科目を履修し、教育の基本的概念・理念・歴史を踏まえつつ教職の意義・あり方を理解し、教員として必要な資質・能力の基礎を修得する。</p> <p>学科の関連科目でもある教科科目「経済学Ⅰ(ミクロ経済学)」を基幹科目などと関連付けて履修することを通して、法律・政治・経済の視点から人間とその社会に対し多角的にアプローチしつつ理解を深める。</p>
	4セメスター	<p>教職科目を履修し、子どもの発達段階とこれに応じた指導・教育、カリキュラム・マネジメントの意義・方法、学校教育・学校経営の現状・課題などに関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>教科科目として、学科の展開科目・関連科目でもある「政治過程論」「国際関係論A」「経済学Ⅱ(マクロ経済学)」を基幹科目などと関連付けて履修することを通して、法律・政治・経済に加えて国際関係の視点から人間とその社会に対し多角的にアプローチしつつ理解を深める。</p>
	通年	<p>教科の指導法に関する科目である「社会科教育法」について、学士課程の専門教育および専門科目との連関を意識しつつ履修し、社会科の指導法を修得する。</p>
3年次	5セメスター	<p>教職科目を履修し、特別支援教育の指導法、教育実践における価値観・方法・技術、情報通信技術を活用した教育方法などを修得する。</p> <p>教科科目として、学科の展開科目でもある「国際関係論B」「国際法A」「先端研究講義Ⅱ-1(国際経済法)」「法哲学A」「法哲学B」を他の展開科目などと関連付けて履修することを通して、人間とその社会に関し国際法・法哲学などの視点も踏まえて洞察する力を修得しつつ理解を深める。</p>
	6セメスター	<p>教職科目を履修し、学校におけるカウンセリングを含む教育相談の方法、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法などを修得する。</p> <p>教科科目として、学科の展開科目でもある「国際法B」「先端研究講義Ⅲ-2(国際経済法)」を他の展開科目などと関連付けて履修することを通して、人間とその社会に関しグローバルな広い視野をもち洞察する力を修得しつつ理解を深める。</p>
	通年	<p>教科の指導法に関する科目である「社会・公民科教育法」について、学士課程の専門教育および専門科目との連関を意識しつつ履修し、社会科の指導法を修得する。</p>
4年次	7セメスター	<p>教職科目を履修し、生徒指導・進路指導の原理・指導方法などを修得する。</p>
	8セメスター	<p>教職科目を履修し、4年間の学士課程および教職課程における学びを総括したうえで、自身の教職適性も含めて真摯に省察を行い、教職実践および学校現場へと積極的に志向する姿勢を形成する。</p>
	通年	<p>「教育実習Ⅰ」を履修し、十分な事前指導のうえに学校現場における教育実践に臨むことを通して、授業実践のための教科力を修得するとともに、教師としての実務において求められる広範な資質・能力を体得する。また、生徒観を錬磨するとともに、教師の職業的本質を十分に理解することを通して、教職への意欲を確かなものにする。以上の目標の達成を確かなものにするために、事後指導を行う。この一連のプロセスを通して、4年間の学士課程および教職課程において修得した「理論」と、学校現場における「実践」との「往還」に留意しつつ、教師に必要な力量を修得する。</p>